

試料・情報利用研究計画書(概要)

審査委員会 受付番号	2022-1004	利用 形態	共同研究	利用する 試料・情報	対象:三世代コホート調査参加者 妊婦と児、家族 約20,000組 試料:なし 情報:調査票情報、検体検査情報、カルテ転記情報、メタボローム情報、妊娠高血圧症候群の病型分類、乳幼児健診情報、母子健康手帳情報、学校健診情報、ゲノム情報	
主たる研究機関	東北メディカル・メガバンク機構			分担 研究機関	岡山大学	
研究題目	妊娠高血圧症候群に伴う環境要因と遺伝的要因による小児肥満のリスク因子の探索			研究期間	2022年7月～2025年3月	
TMM 担当研究者	荻島 創一	所属	東北メディカル・メガバンク機構		職位	教授
共同研究機関 担当研究者	増山 寿	所属	岡山大学医歯薬学総合研究科		職位	教授
研究目的と意義	妊娠高血圧症候群(HDP)を合併した母親から生まれた子どもは、小児期および青年期に肥満症となる傾向があることが知られている。しかし、このような子どもで、どのような要因が、小児肥満の発症に影響しているかはよくわかっていない。小児肥満は、将来の糖尿病や高血圧などの数多くの生活習慣病のリスクを著しく増大させるため、HDPを合併した母親から生まれた子どもの小児肥満に関連するリスク因子を解明し、小児肥満の予防法の確立への道を示すことは、より多くの子どもの健康づくりに貢献する。そのため、本研究では、HDPを合併した母体から生まれた子どもの、生まれる前と出生後の情報を解析し、小児肥満のリスク因子を探索する。					
研究計画概要	本研究では、母親を、HDPを合併しなかった対象者とHDPを合併した対象者に分類し、それぞれのグループで、非肥満児・肥満児間での比較を行い、小児肥満に関連する因子の同定を行う。同定した因子について、母親のHDPの合併の有無で違いがあるのかを明らかにし、母親のHDPの合併の、子どもの小児肥満への影響を解明する。さらに、子どもの成長に伴い、それぞれのグループでどのような因子が小児肥満に関連しているのかを調べることで、子どもの成長に伴う小児肥満に関連する新しい因子の同定と、母親のHDPの合併の影響が子どもの成長にどのように影響を与えるのかを解明することを目指す。環境因子としては、母親・子ども、同居する祖父母、同胞の情報をを用いる。遺伝因子としては、母親、児、父親、祖父母、同胞の情報をを用いて家系ベースの解析を行う。					
期待される成果	小児肥満のリスク因子を探索して、HDPを発症した母体より出生した児における小児肥満の原因となる環境要因と遺伝的要因を解明する。これにより、小児肥満の発症機序や病態解明につながる事が期待される。また、小児肥満のハイリスク児を抽出することが可能となり、母児健康保健から小児期、青年期および成人期を通じて予防医学に貢献することが期待される。					
これまでの倫理 審査等の経過	2022年7月 東北メディカル・メガバンク機構倫理委員会承認(中央一括審査)					
倫理面、セキュリ ティー面への配慮	研究の遂行にあたっては、人を対象とする生命科学・医学系研究の倫理指針及び別途締結する研究契約を遵守して実施する。 試料・情報は、ToMMoスーパーコンピュータ内で限られた研究者のみがアクセス可能な環境で利用される。					
その他特記事項	岡山大学研究室経費					

※ 公開日 令和4年9月2日